

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	京都大学
整理番号	A08
構 想 名	京都大学ジャパングートウェイ構想

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
(コメント) 本構想は「徹底した大学院教育の国際化」を推進し、欧米及びアジアのトップレベル大学との間に構築する「ワールドプレミアム高等教育ネットワーク」のジャパングートウェイ（ハブ的存在の大学）となることを目的とするものである。 自由な学風の下に優秀な学生や教職員が個々に独創的な学術活動を行い、これが卓越した研究成果や恵まれた学習・研究機会の提供や、大学ランキングを含めた学内外からの高い評価に繋がっている。 人文社会科学系を含めた幅広い専門分野におけるジョイント・ディグリーやダブル・ディグリーの展開、世界から若手研究者を獲得する白眉プロジェクトなど多くの優れた取り組みが行われている。 他方、様々な国際的な機会や資産を、個別の研究室や教員の指導を超えて大学全体として幅広い学生や教員・研究者にわかりやすい形で明示し、享受できるような、グローバルな教育・研究の全学横断的な展開へと統合性を持った形で体系化していくための指針や仕組みが弱く、学生の海外派遣や外国語による授業科目の提供などで目標の未達成となる要因の一つとなっていると思われる。 全学的な IR への取組の強化は評価でき、大学ランキングや自走化計画などにその成果の一部が確認できる。しかしながら、各部局、分野、あるいは研究室間の相互連携を促進し、全学的な取り組みとする上で求められる大学の国際的な活動実態の把握については十分ではなく、その結果として有効な全学的な取組が進んでいない領域が散見される。 ロジックモデルの提示を求めているように、本事業は採択大学に対して大学の国際化を総合的に推進することで世界トップレベルの大学、交流の実現を目指すものである。日本や世界を代表する多くの優れた実績をもつ大学として、学内構成員、学外関係者に対して大学の国際化に向けた指針及び活動と機会をより体系的に把握し、明示的な形で説明することで、構想に掲げられた理念と目標とを着実に実現し、他大学にも裨益するような優れたモデルを提示されることを期待する。 自走化については、外部資金の獲得強化に向けた具体的道筋が明確に示されている点は評価できる。一方で、事業終了後を見据えた国際化の方向性を、具体的なビジョンとロードマップを体系的に示し、実行に移すことを強く期待する。	